

リフォームダクトツインタイプ TJD
施工要領書

2024年 3月 22日

因幡電機産業株式会社
技術本部

目次	ページ
1. はじめにお読みください	1
2. 施工要領	2
2-1. パイプホルダーの選定	3
2-2. 経路確認と墨出し	3
2-3. パーツベースの取り付け	3
2-4. ダクトベースの設置	3
2-5. ダクトベースおよびパイプホルダーの取り付けと配管施工	4
2-6. 貫通部の処理	5
2-7. カバーの取り付け	5
2-8. 防水処理	5
3. 施工のポイント	6
3-1. 混合栓用ボックスカバー TJMB	6
3-2. 平面チーズカバー TJHT	11
3-3. シングル変換アダプター TJAD	11
3-4. ソケットカバー TJSC	11
3-5. 立面アウトコーナー90° ミニ TJCOM	12
3-6. 立面インコーナー90° ミニ TJCIM	12
3-7. セパレーター TJDSP	12
3-8. カットラインおよび半抜き穴	13
3-9. 防露処理	13
4. 適合配管表	14

1. はじめにお読みください

本製品は給水・給湯管を壁面上などに施工する場合に使用する配管化粧カバーです。それ以外の用途には使用しないでください。

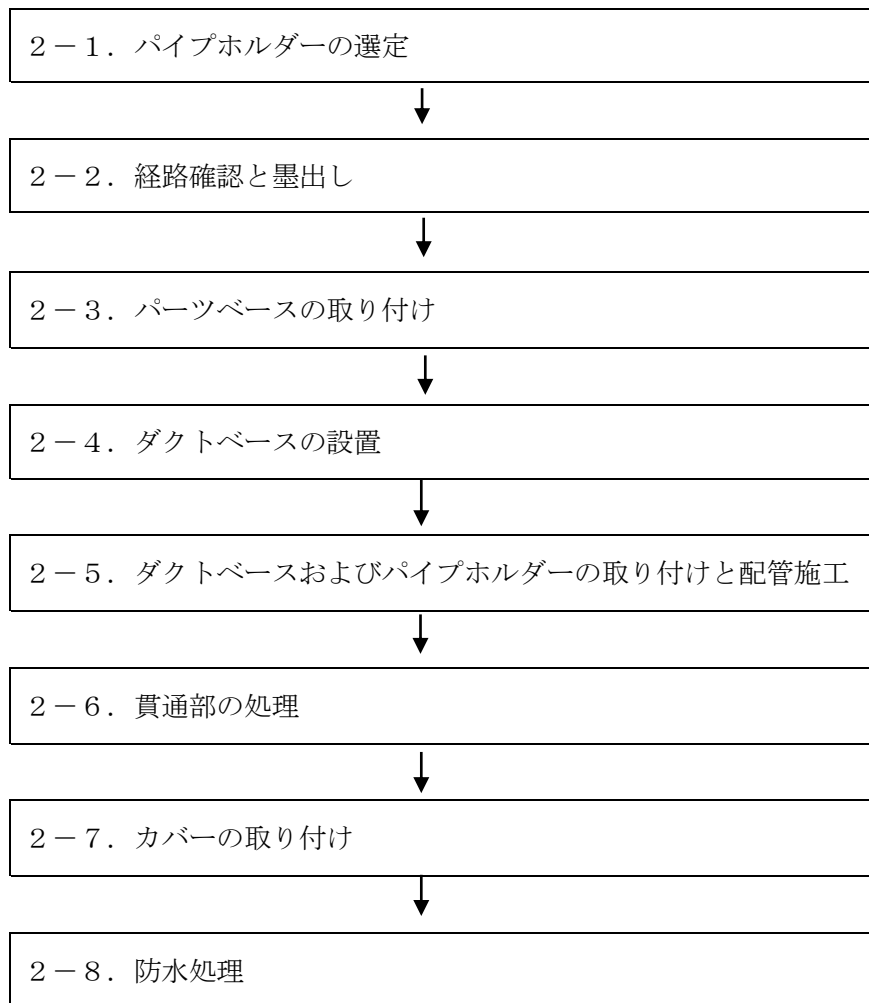
【お願い】

- TJD シリーズを給湯に使用の場合は、次の点に注意してください。
 - ・管内温度が高い配管に使用しますと、配管の熱で伸縮することによりダクトに不具合が発生するおそれがあります。管内温度 80℃以下で使用してください。
 - ・樹脂管が熱で伸縮することにより、カバーが外れるおそれがあります。直線配管距離の目安については、「4. 適合配管表」内の直線配管距離の項目を参照してください。
 - ・樹脂管が熱で伸縮することにより、きしみ音が発生することがあります。パーツベースとダクトベースが密着していますと、配管の伸長によりパーツ部にて微小音が発生する可能性があるため、パーツベースとダクトベースのすき間を 2,3mm 空けて施工してください。
 - ・樹脂管が熱で伸縮することにより、カバーが落下するおそれがあるため、天井面には施工しないでください。
 - ・金属製継手は、熱でカバーが変形するおそれがありますので、使用いただけません。
- 壁の素材を確認の上使用してください。石膏ボードなどでは、固定強度が不足することがあるため、壁下地材の木軸などに固定してください。やむなく石膏ボードに固定する場合はボードアンカーを使用してください。
- ウォーターハンマーによる衝撃音が発生する可能性のある場所は、配管に緩衝材(保温材など)を巻いてください。
- 壁面固定用のねじは、ねじ径 4mm のものを使用してください。
- 樹脂管は、巻き癖のない直管を使用してください。コイル管を使用する場合は、巻き癖を緩和しながら施工してください。
- ダクトの施工作业時は防護服、作業用手袋などを着用してください。また、ノコギリなどを使用して切断作業する場合は切粉が目に入らないように保護メガネを着用してください。
- 冬場など気温の低い時期は、ダクト切断時にダクトが割れるおそれがありますので、ダクトを温めてから切断してください。
- ダクトはノコギリなどで切断してください。切断部については、配管や保温材の傷つきや損傷を防止するため、バリの処理をしてください。
- 本製品は使用環境温度の範囲内で使用してください。高温になる火元周りでの使用には十分注意してください。
- 配管が防火区画を貫通する場合は、別途、建築基準法にて定められた防火区画貫通処理を施してください。なお、貫通部周辺に本製品を取り付ける場合は、所轄の消防署まで確認してください。
- カバー表面の清掃は、カラ拭きまたは中性洗剤をうすめてかるく拭いてください。
- インパクトドライバーを使用すると製品が割れるなど本来の性能を損なう場合がありますので、使用は避けてください。
- 混合栓用ボックスカバーの施工の際には、別売の給水栓用継手ホルダーおよび給湯用継手ホルダーが必要な場合があります。

2. 施工要領

施工手順を以下に示します。

パイプホルダーやパーツの選定、配管直線距離は、「4. 適合配管表」を参照してください。



※必ず「3. 施工のポイント」や付属の取扱説明書も合わせて確認してください。

<取り付けビス>

- ・ねじ径 4mm のタッピンビスを使用してください。
- ・材質は環境に応じて選択してください。(ステンレス製を推奨)

注意) 石膏ボードなどでは固定強度が不足することがあるため、壁下地材の木軸などに固定してください。やむなく石膏ボードへ固定する場合は、ボードアンカーを使用してください。

注意) インパクトドライバーを使用すると製品が割れるなど本来の性能を損なう場合がありますので、使用は避けてください

2-1. パイプホルダーの選定

適用パイプホルダーを示します。(詳細は『適合配管表』を参照ください。)

例) 架橋ポリエチレン管 13A(裸管)の場合は、**JRH-13J** を使用してください。

2-2. 経路確認と墨出し

配管経路を確認し、墨出ししてください。

注意) 樹脂管が熱伸縮することによりカバーが外れるおそれがあります。給湯で使用する場合は直線配管距離に制限があります。『適合配管表』の直線配管距離を確認してください。

2-3. パーツベースの取り付け

パーツのベースをビスで取り付けてください。

(仮止めできるようにパーツ底部の裏面には、両面テープが貼り付けてあります。)

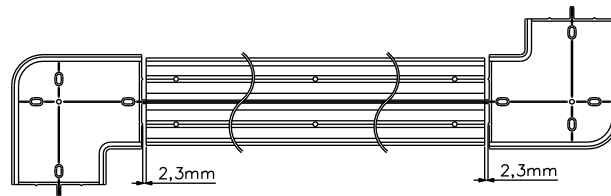
付属の取扱説明書がある場合は、確認してください。

2-4. ダクトベースの設置

ダクトベースをパーツベースに取り付けてください。(ダクトベースの裏面カン合溝にパーツベースの突起を嵌め込んでください。)

ダクトベースを撓ませながらパーツベースの突起部を差して嵌め込むか、パーツベースの突起部の上にダクトベースを当てがって、ダクトベースを強く押し付けて嵌め込んでください。

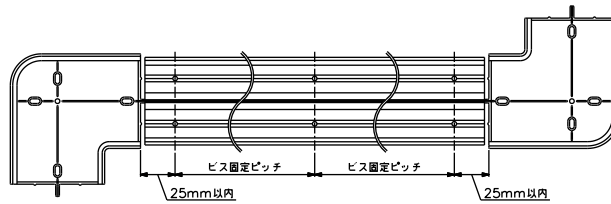
注意) 樹脂管が熱伸縮することによりきしみ音が発生することがあります。パーツベースとダクトベースが密着していますと、微小音が発生する可能性があるため、パーツベースとダクトベースのすき間を 2,3mm 空けて施工してください。



2-5. ダクトベースおよびパイプホルダーの取り付けと配管施工

ダクトベースの固定ビスは、ダクトの両端から 25mm以内²にそれぞれ取り付けてください。その間のビス固定ピッチは、下表のピッチ以下としてください。

パイプホルダーは、ダクトベースの固定ビス位置すべてに取り付けてください。

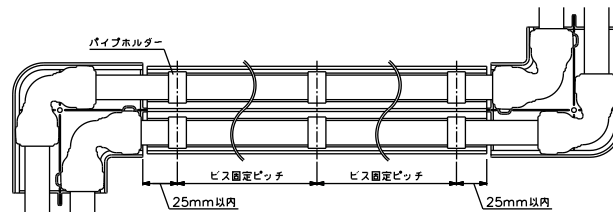


＜ビス固定ピッチ＞

		屋外	屋内
架橋ポリエチレン管 ポリブテン管	保温材 5mm	500mm	500mm
	保温材 10mm	500mm	500mm
	エスロペックス CV	400mm	500mm
	裸管	300mm	400mm
(HI) VP/HTVP 管		500mm	500mm

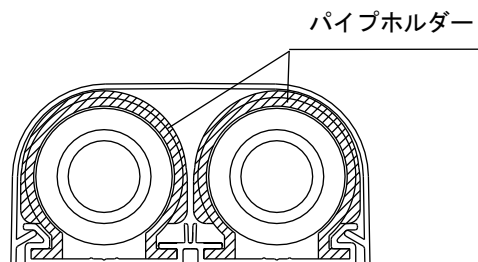
(1) パイプホルダー (JH) または、バンド式パイプホルダー (JBH) 使用の場合

- ・パイプホルダーと一緒にダクトベースを壁面にビス固定してください。
(パイプホルダーはビス固定位置すべてに取り付けてください。)
- ・その後、パイプホルダーに配管を嵌め込んでください。



(2) パイプホルダー (JRH) または金属製パイプホルダー (JKH) 使用時

- ・ダクトベースを壁面にビス固定してください。
- ・その後、配管施工時にパイプホルダーを取り付けてください。
(パイプホルダーはビス固定位置すべてに取り付けてください。)



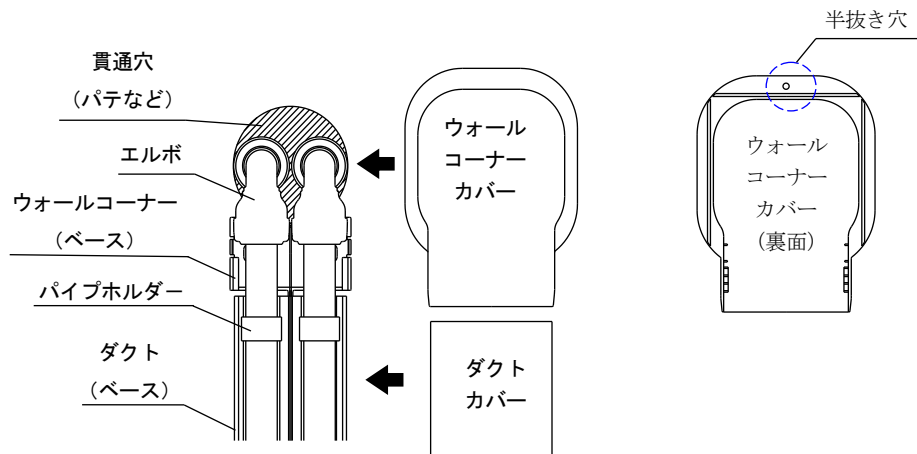
＜注意＞

- ・配管は、パイプホルダーに確実に嵌め込んでください。
- ・コーナーパーツへの配管継手の取り付けは、パイプホルダーで支持された中心線上来るよ
うに配管長さを合わせて取り付けてください。
中心からズレると配管の伸縮により、カバーが外れるおそれがあります。
- ・配管に無理なゆがみなどが掛からないように施工してください。
- ・樹脂管は巻き癖のない直管を使用してください。コイル管を使用する場合は巻き癖を
取り除きながら施工してください。

2-6. 貫通部の処理

リフォームダクト TJD は、防水構造ではありません。必要に応じて貫通穴と配管のすき間は、パテやモルタルなどで埋め戻してください。

(貫通部の埋め戻し部材は、施工に適した部材を使用してください。)



注意) カバーがガタつく場合は、カバー裏側に半抜き穴を設けていますので、ビス止めしてください。

2-7. カバーの取り付け

ダクト、パーツの順にカバーを取り付けてください。

注意) カバーがベースにしっかりと嵌合し、いびつなすき間が発生していないことを確認してください。

2-8. 防水処理

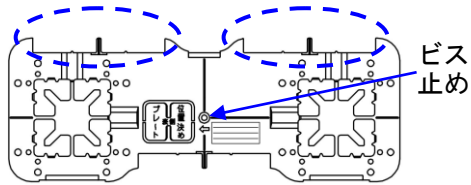
リフォームダクト TJD は、防水構造ではありません。必要に応じてパーツやダクトのすき間をコーキング材などで防水処理してください。

3. 施工のポイント

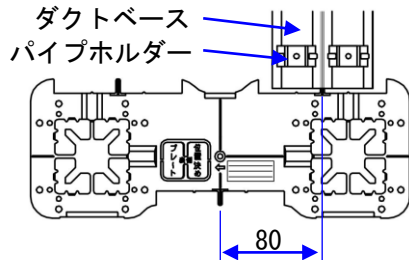
3-1. 混合栓用ボックスカバー TJMB

【VP 管およびHTVP 管で施工する場合（引き込みを片寄せする場合）】

- (1) 混合栓用ボックスカバーのベースをビス止めしてください。左右どちらかの配管経路にて施工を実施してください。

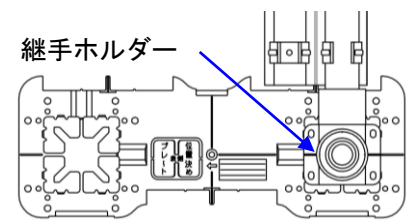


- (2) 配管経路に対して位置決めを行い、ダクトベースをパイプホルダーと一緒にビス止めしてください。



パイプホルダーおよびビス止めピッチは、500mm 以内とし、とくにダクトのベース端部（端から約 25mm）は、必ずパイプホルダーと一緒にビス止めを行ってください。

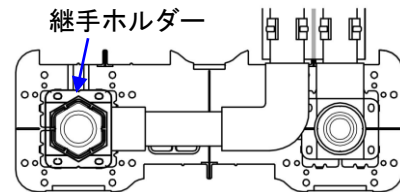
- (3) 配管を「直線で接続する」側の、パイプとエルボ継手を接続しパイプホルダーによりダクトベースに固定後、継手ホルダー（別売）を嵌め込み、ビス止めしてください。



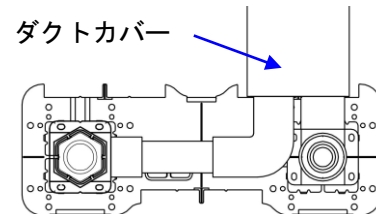
(注意)

- ・先に、「曲げて接続する」側を施工すると、「直線で接続する」側の継手ホルダーのビス穴が隠れて、施工ができないおそれがあります。
- ・継手ホルダーがビス止めできない場合は、「継手ホルダー用アタッチメント」を使用してください。

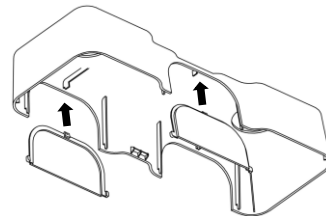
- (4) 配管を「曲げて接続する」側の、パイプとエルボ継手を接続しパイプホルダーによりダクトベースに固定後、継手ホルダー（別売）を嵌め込み、ビス止めしてください。



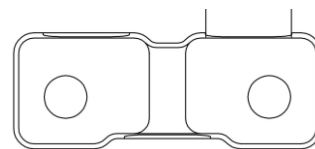
- (5) ダクトカバーをベースに嵌め込んでください。



- (6) カバー側面のダクト貫通孔2箇所にてフタを取り付けてください。（注意：フタは、カバー側面にスライドさせながら取り付けてください。）



- (7) カバーをベースに嵌め込んで完了です。



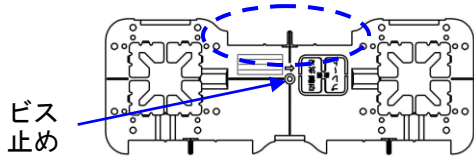
(注意)

- ・ボックスカバー天面とエルボ継手の高さ調整が必要な場合は、市販の持出ソケットおよび別売の水栓ボックス用アダプター（JET-AN/JET-C）を使用してください。

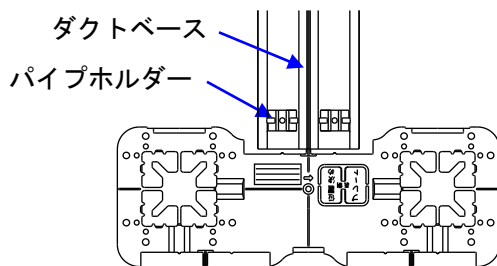
【VP 管および HTVP 管で施工する場合（引き込みを中央部でする場合）】

注) 本施工方法は、(HI) VP-13A および HTVP-13A の場合のみ施工できます。
他のサイズおよび樹脂管では施工できませんので、注意してください。

- (1) 混合栓用ボックスカバーのベースをビス止めしてください。

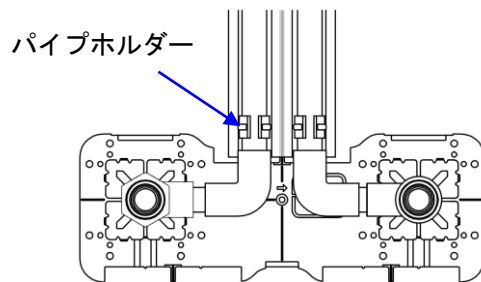


- (2) 配管経路に対して位置決めを行い、ダクトベースをパイプホルダーと一緒にビス止めしてください。



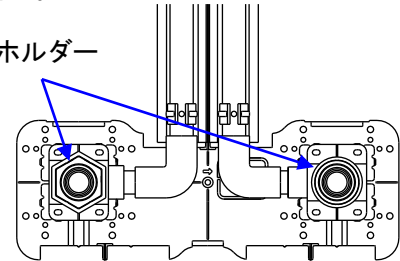
ビス止めピッチは、500mm 以内とし、とくにダクトのベース端部(端から約 25mm)は、ビス止めを行ってください。

- (3) パイプとエルボ継手を接続し、パイプホルダーによりダクトベースに固定してください。



- (4) 給湯用エルボ継手および給水用エルボ継手に各継手ホルダー(別売)を嵌め込み、ビス止めしてください。

継手ホルダー

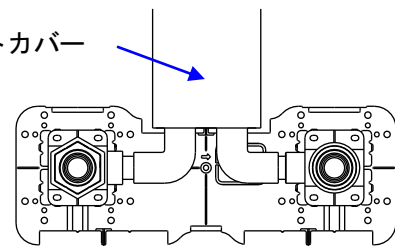


(注意)

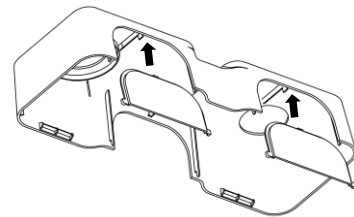
・継手ホルダーがビス止めできない場合は、「継手ホルダー用アタッチメント」を使用してください。

- (5) ダクトカバーをベースに嵌め込んでください。

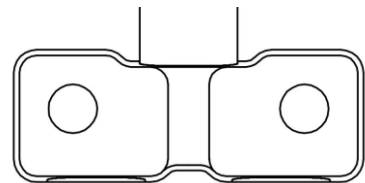
ダクトカバー



- (6) カバー側面のダクト貫通孔2箇所にフタを取り付けてください。(注意: フタは、カバー側面にスライドさせながら取り付けてください。)



- (7) カバーをベースに嵌め込んで完了です。

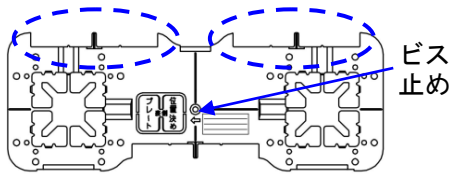


(注意)

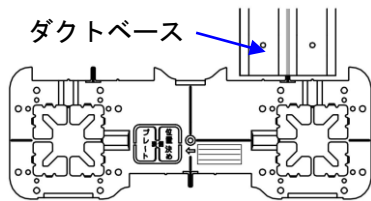
・ボックスカバー天面とエルボ継手の高さ調整が必要な場合は、市販の継ぎ足しソケットおよび別売の水栓ボックス用アダプター(JET-AN/JET-C)を使用してください。

【樹脂管で施工する場合（引き込みを片寄せする場合）】

- (1) 混合栓用ボックスカバーのベースをビス止めしてください。左右どちらかの配管経路にて施工を実施してください。



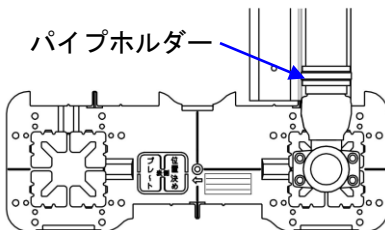
- (2) 配管経路に対して位置決めを行い、ダクトベースをビス止めしてください。



80

ビス止めピッチは、500mm 以内とし、とくにダクトのベース端部(端から約25mm)は、ビス止めを行ってください。

- (3) 配管を「直線で接続する」側の、樹脂管と座付きエルボ継手を接続し、ビス止めしてください。樹脂管はパイプホルダーによりダクトベースに固定してください。



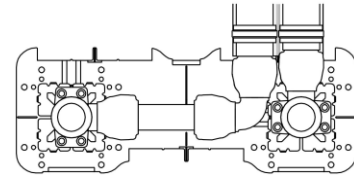
(注意)

- 先に、「曲げて接続する」側を施工すると、「直線で接続する」側の座付きエルボ継手のビス穴が隠れて、施工ができないおそれがあります。

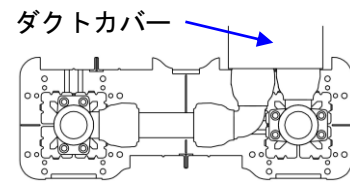
(注意)

- 座付き継手は各社高さが異なりますので、混合栓用ボックスカバーへ収納する際には、「継ぎ足しソケット (L=10mm) ※現地調達品」と「水栓ボックス用アダプターJET-AN/JET-C」を組み合わせる施工してください。
(座付き寸法 ϕ 48mm 以下 : JET-AN、座付き寸法 ϕ 48～ ϕ 61mm : JET-C)

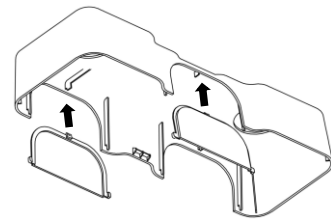
- (4) 配管を「曲げて接続する」側の、樹脂管と座付きエルボ継手を接続し、ビス止めしてください。樹脂管はパイプホルダーによりダクトベースに固定してください。



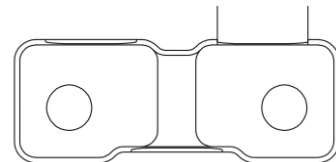
- (5) ダクトカバーをベースに嵌めてください。



- (6) カバー側面のダクト貫通孔2箇所に取り付けをください。(注意: フタは、カバー側面にスライドさせながら取り付けをください。)



- (7) カバーをベースに嵌め込んで完了です。



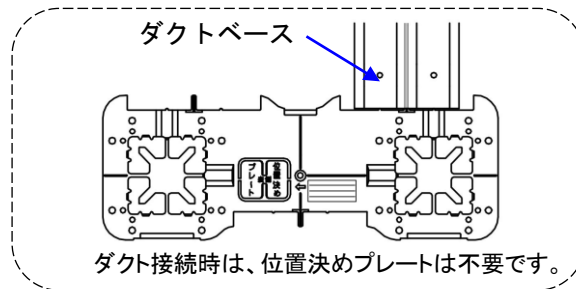
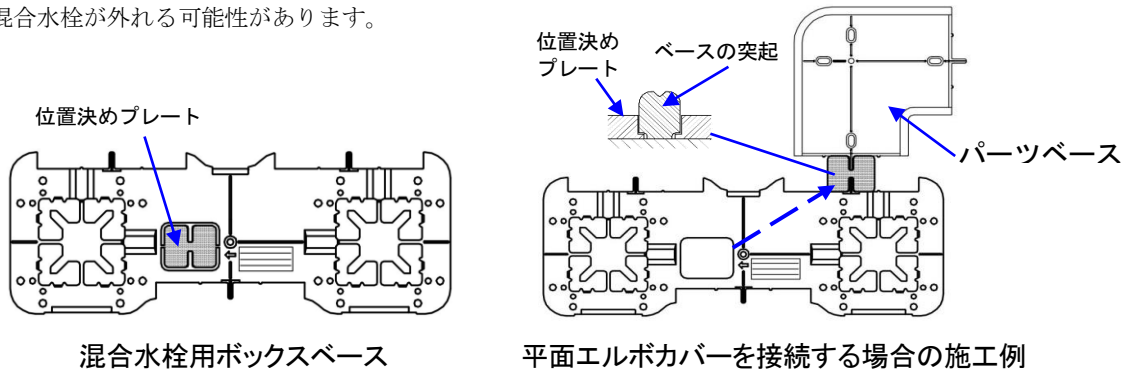
【各配管共通】

①位置決めプレート

- 平面エルボカバーを直近に設置する場合は、ベースパーツより位置決めプレートをニッパーで切り取り、配管経路の突起部とベースの突起部に差し込み、パーツベースの位置決めを行ってください。

注) 位置決めプレートには表裏がありますので、「表側」の刻印をご確認ください。

注) 混合水栓に過剰な負荷をかけないように注意してください。ボックスが破損し、混合水栓が外れる可能性があります。



②アダプター

- 付属のアダプターをカバーに取り付けて施工することで、短尺のダクトを使用せずに施工が可能です。(アダプターはパーツカバーの外側にカン合します。ダクトカバーへ嵌合させる場合はすき間が発生しますので、注意してください。)

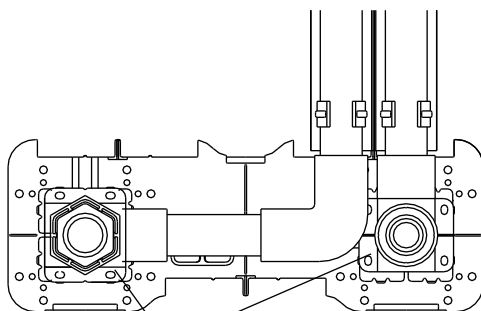


短尺ダクトなしで施工可能な範囲

③継手ホルダー

- (HI) VP管およびHTVP管を収納する場合には、別売の継手ホルダーを使用して給水栓用(給湯用)エルボ継手を固定し、施工してください。

※(株)ブリヂストン製水栓エルボを使用する場合、13AはJECH-13×2個、16AはJECH-20×2個を使用してください。

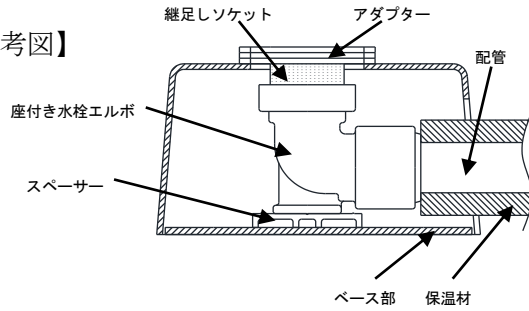


継手ホルダー

<適用継手ホルダー>

管サイズ	給水用	給湯用
13	JECH-13	JEHH-13
16	JECH-20	JEHH-20
20	JECH-20	JEHH-20

【参考図】



- ・継手の高さ寸法が不足する場合は、継ぎ足しソケット（市販品）、JD 用スペーサーおよび水栓ボックス用アダプター JET を使用して調整してください。
- ・配管に保温処理をする場合、保温材が製品ベース部に当たらないようにスペーサーが必要となる場合があります。

＜水栓ボックス用アダプターJETの使用枚数（樹脂管）＞

樹脂管メーカー	管サイズ	座付水栓エルボ			適用給水栓用エルボカバー	必要寸法調整部材				
		型番	ネジサイズ	高さ(mm)		継足しソケット寸法(mm)	JD用スペーサー	水栓ボックス用アダプター		
㈱オランダ製作所	10A 裸	WL5-1310-S	1/2	47	TJMB-20	-	JDS-13-05	-		
	13A 裸、5mm保温	WL5-1310C-S	1/2	47		-	JDS-13-05	-		
	13A 10mm保温	WLSF5-1313-S	1/2	50		-	-	-		
		WL5-1313C-S	1/2	47		-	JDS-13-05	-		
	16A 裸、5mm保温	WL5-1313-S	1/2	52		-	JDS-13-05	-		
		WLSF5-1313-S	1/2	55		-	JDS-13-05	JET × 1		
		WL5-1313C-S	1/2	52		-	JDS-13-05	-		
		WL5A-1316-S	1/2	53.5		-	-	-		
	シーケー金属㈱	10A 裸	GEC-RZ10C4	1/2		49.5	TJMB-20	-	-	-
		13A 裸、5mm保温	GEC-RZ10P4	1/2		49.5		-	-	-
13A 10mm保温		GEC-RZ13C4	1/2	49.5	-	-		-		
		GEC-RZ13P4	1/2	49.5	-	-		-		
16A 裸、5mm保温		GEC-RZ13C4	1/2	54.5	-	JDS-13-05		JET × 1		
		GEC-RZ13P4	1/2	54.5	-	JDS-13-05		JET × 1		
		GEC-RZ16C4	1/2	52.5	-	-		-		
		GEC-PRZ16C4	1/2	52.5	-	-		-		
日本継手㈱ ㈱クボタケミックス		10A 裸	JQ2FL-W	1/2	47	TJMB-20		-	JDS-13-05	-
		13A 裸、5mm保温	ADPN-L-S	1/2	52.25			-	-	-
	JQ2FL-W		1/2	47	-		JDS-13-05	-		
	13A 10mm保温	HF-WL-OB	1/2	54	-		-	JET × 1		
		ADPN-L-S	1/2	53	-		-	-		
		HF-VLVS-LB	1/2	58	-		-	JET × 3		
		JQ2FL-W	1/2	52	-		JDS-13-05	-		
	16A 裸、5mm保温	HF-WL-OB	1/2	59	-		JDS-13-05	JET × 3		
		ADPN-L-S	1/2	58	-		JDS-13-05	JET × 3		
		HF-VLVS-LB	1/2	63	-		JDS-13-05	JET × 5		
	JQ2FL-B	1/2	53.5	-	-	-				
積水化学工業㈱	10A 裸	SMWL10Z	1/2	47	TJMB-20	-	JDS-13-05	-		
	13A 裸、5mm保温	SMWL13W	1/2	44.2		-	JDS-13-05	-		
	13A 10mm保温	SPWL13W	1/2	44.2		-	JDS-13-05	-		
		SMWL13W	1/2	49.2		-	-	-		
	16A 裸、5mm保温	SPWL13W	1/2	49.2		-	-	-		
		SMWL16W	1/2	50.3		-	-	-		
	SPWL16W	1/2	50.3	-	-	-				
㈱タブチ	10A 裸	AT10-Z	1/2	58	TJMB-20	-	-	JET × 3		
	13A 裸、5mm保温	OT10-Z2	1/2	49.5		-	-	-		
		AT13-Z	1/2	58		-	-	JET × 3		
	13A 10mm保温	OT13-ZW	1/2	47		-	JDS-13-05	-		
		OT13-ZW3	1/2	49.5		-	-	-		
		OT13-Z2	1/2	49.5		-	-	-		
		AT13-Z	1/2	63		-	JDS-13-05	JET × 5		
	16A 裸、5mm保温	OT13-ZW	1/2	52		-	JDS-13-05	-		
		OT13-ZW3	1/2	54.5		-	JDS-13-05	JET × 1		
		OT13-Z2	1/2	54.5		-	JDS-13-05	JET × 1		
OT16-13ZW		1/2	52	-	JDS-13-05	JET × 1				
	OT16(PN15)-13ZW	1/2	52	-	-	-				
前澤給装工業㈱	10A 裸	713833-10-1/2	1/2	47	TJMB-20	-	JDS-13-05	-		
	13A 裸、5mm保温	718013-13-1/2	1/2	47		-	JDS-13-05	-		
	13A 10mm保温	713833-13-1/2	1/2	47		-	JDS-13-05	-		
		718013-13-1/2	1/2	52		-	JDS-13-05	-		
		713833-13-1/2	1/2	52		-	JDS-13-05	-		
三井化学産資㈱	10A 裸	JZEM10R1	1/2	51	TJMB-20	-	-	-		
	13A 裸、5mm保温	JZEM13R1	1/2	52		-	-	-		
	13A 10mm保温	JZEM13R1	1/2	57		-	JDS-13-05	JET × 2		
		JMZM-16R1	1/2	58		-	-	JET × 3		
	16A 裸、5mm保温	JMZM-16R1	1/2	58		-	-	JET × 3		
三菱ケミカル インフラテック㈱	10A 裸	MSZ-10	1/2	48	TJMB-20	-	JDS-13-05	-		
	13A 裸、5mm保温	MSZ-13	1/2	48		-	JDS-13-05	-		
	13A 10mm保温	MZE-15-13Z	1/2	50		-	-	-		
		MSZ-13	1/2	53		-	JDS-13-05	-		
	16A 裸、5mm保温	MZE-15-13Z	1/2	55		-	JDS-13-05	JET × 1		
		MZE-15-16Z	1/2	58		-	-	JET × 3		
㈱KVK	10A 裸	GDZL-10P1	1/2	47	TJMB-20	-	JDS-13-05	-		
	13A 裸、5mm保温	GDZL-13P1	1/2	47		-	JDS-13-05	-		
	13A 10mm保温	GDZL-13P1	1/2	52		-	JDS-13-05	-		
		GDZL-16P1	1/2	47		-	JDS-13-05	-		
	16A 裸、5mm保温	GDZL-16P1	1/2	47		-	JDS-13-05	-		

※㈱ブリヂストン製座付水栓エルボの対応については、同社カタログを確認してください。

※JDS-13-05はJDS-20-05で代用可能です。

※JD用スペーサーは必要な長さに切断して使用してください。

※JD用スペーサー、水栓ボックス用アダプターは屋外での使用が可能です。

※水栓ボックス用アダプターの記載枚数は、座付き水洗エルボの水栓取り付け口のの高さに合う枚数です。

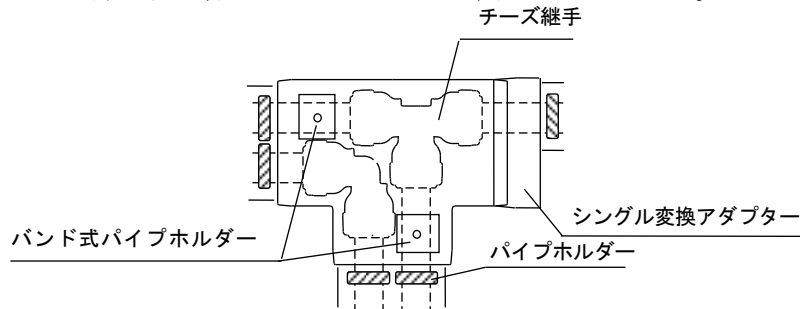
※給水栓の止水テープの巻き数によって、必要アダプター枚数が増える場合があります。

＜水栓ボックス用アダプターJETの使用枚数（VP管）＞

	管サイズ	給水／給湯	ネジサイズ	継ぎ足しソケット(mm)	JD用スペーサー	アダプター枚数
(HI)VP管 ／HTVP管	13	給水 13	1/2	10	—	5
		給湯 13	1/2	10	—	5
	16	給水 16	1/2	—	—	0
		給湯 16	1/2	—	—	0
	20	給水 20	1/2	—	—	0
		給湯 20	1/2	—	—	2

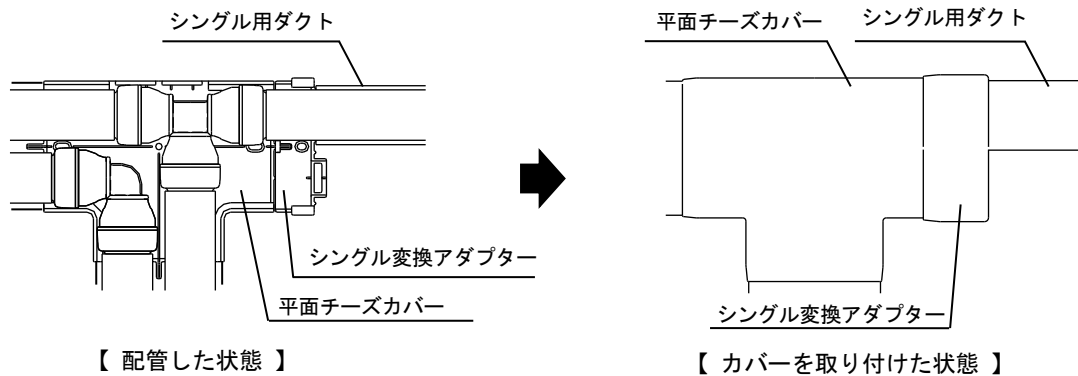
3-2. 平面チーズカバー TJHT

付属のバンド式パイプホルダーをビス固定し、チーズ継手を固定してください。
また、ダクト端部の各配管をパイプホルダーで固定してください。



3-3. シングル変換アダプター TJAD

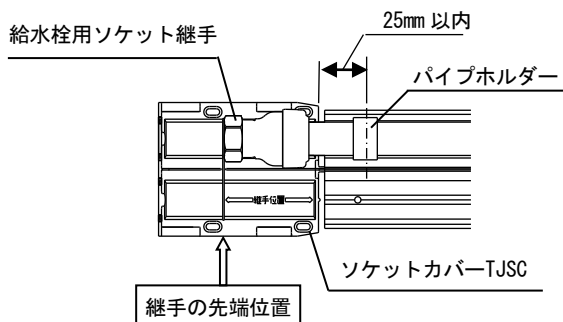
配管途中で配管経路がツイン(2本)からシングル(1本)に変わる場合は、シングル変換アダプターを使用することでシングル用ダクト(JD-20N)を接続することができます。



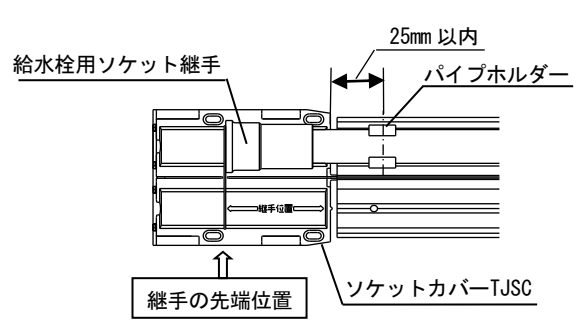
3-4. ソケットカバー TJSC

- ・ダクト端部から 25mm 以内にパイプホルダーを取り付けてください。
- ・配管の伸縮を考慮してソケット継手の先端がパーツベースの刻印の範囲内にくるように配管してください。(先端側(出口側)はすき間が生じます。)

＜施工例（樹脂管）＞



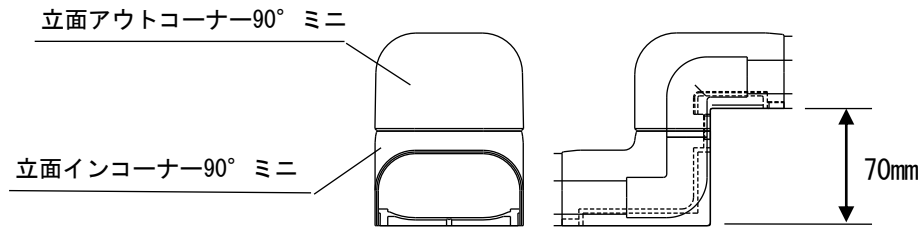
＜施工例（VP管）＞



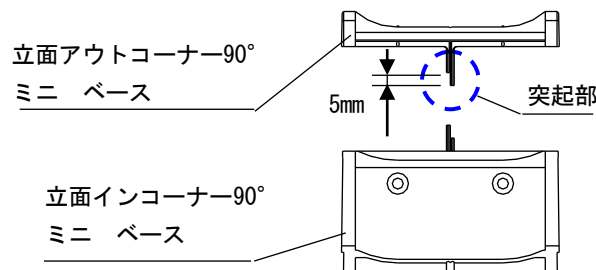
注意) TJSC に「さや管」を施工する場合は、樹脂管の伸縮により「さや管」が動かないようにしっかりと固定するなどの処理を行ってください。

3-5. 立面アウトコーナー90°ミニ TJCOM

立面アウトコーナー90°ミニと立面インコーナー90°ミニの組み合わせにより、最小段差70mmまで対応が可能です（VP-13A以下）。

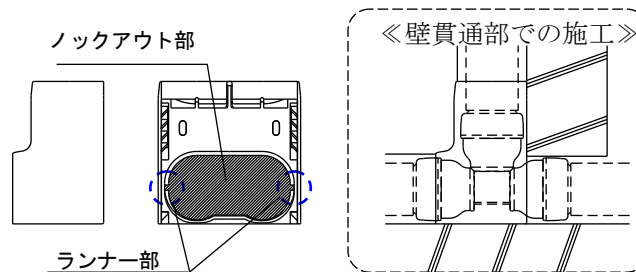


注意) 立面アウトコーナー90°ミニのベースの突起部は、立面インコーナー90°ミニのベースと位置決めができるよう、先端が長くなっています。
平面エルボカバー90°などの他のパーツと突き合せにて施工する場合は、先端部（5mm）をニッパーなどでカットして使用してください。



3-6. 立面インコーナー90°ミニ TJCIM

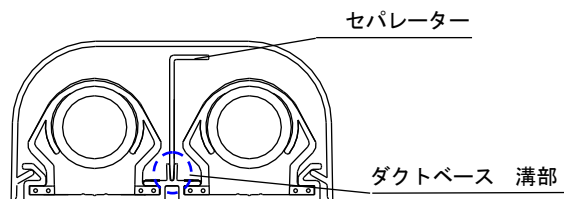
ベース裏面にノックアウト部を設けていますので、ニッパーなどで端部のランナー部をカットすることで、壁貫通部での施工が可能です。



注意) 施工時に配管や保温材のキズつきや損傷を防止する為、カット部にささくれなどが発生しないように処理をしてください。

3-7. セパレーター TJDSP

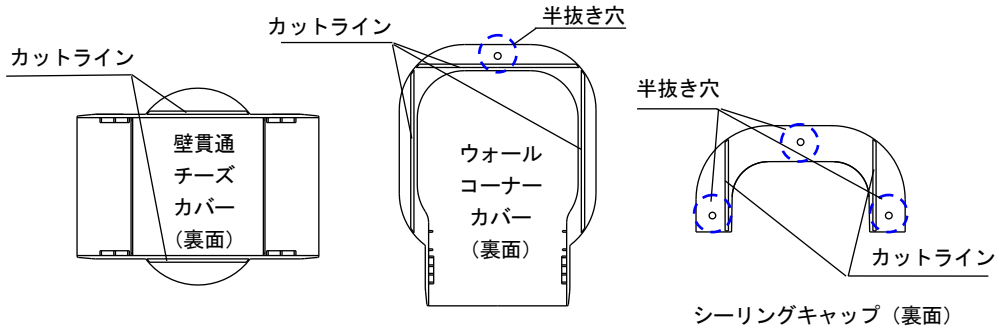
給湯配管と給水配管の接触を避けたい場合には、セパレーターを使用してください。ダクトベースの溝部に差し込むことで固定が可能です。



注意) セパレーターは根元までしっかりと押し込んでください。

3-8. カットラインおよび半抜き穴

壁貫通チーズカバーTJWT, ウォールコーナーTJW, シーリングキャップ TJP には、カバー裏側にカットラインを設けていますので、壁際に寄せて施工する際に必要に応じてカットしてください。



ウォールコーナーTJW, シーリングキャップ TJP には、半抜き穴を設けていますので、施工時にガタつく場合にはビス固定することも可能です。

3-9. 防露処理

収納配管の結露防止対策が必要な場合、配管に保温材を巻くなどの処理を行ってください。

4. 適合配管表

■ 配管×ダクト・ホルダー早見表

■ …屋外使用可能

配管種別	(H) VP管 HTVP管	保温材厚			架橋ポリエチレン管 ポリブテン管 エスロベックスCV			架橋ポリエチレン管 ポリブテン管 保温材付		鋼製ポリエチレン管 ポリブテン管 コルゲート 被覆付き	金属強化 ポリエチレン管 (スーパーエスロ メタックスなど)			ステンレス フレキ管		
		13	16	20	10	13	16	5mm	10mm	—	10	13	16	13	15	20
配管ソフト	TJD	20 [3.0m]	20 [3.0m]	20 [3.0m]	20 [1.0m]	20 [3.0m] ※4 架橋ポリエチレン管 エスロベックスCV ポリブテン管	20 [3.0m] ※4 架橋ポリエチレン管 ポリブテン管	20 [3.0m] ※4 架橋ポリエチレン管 ポリブテン管	20 [3.0m]	20 [6.0m] ※6 架橋ポリエチレン管	20 [6.0m] ※6 架橋ポリエチレン管	20 [6.0m] ※6 架橋ポリエチレン管	20 [6.0m] ※6 架橋ポリエチレン管	20 [制限なし]	20 [制限なし]	20 [制限なし]
配管保持具	パイプホルダー	13J	16	20	10J	—	—	—	—	—	10J	13J	—	—	16	—
	パイプホルダー (標管用)	—	16J	—	—	—	16J	16J	—	—	16J	—	—	—	13J	16J
	パイプホルダー (標管用)	13A	—	—	—	13A	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	パイプホルダー (保温材付用)	—	—	—	—	—	—	—	16H	—	—	—	—	—	—	—
	パイプホルダー (バンド式)	—	20	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—
	NEW 金属製 パイプホルダー	—	—	—	—	—	—	—	—	20N	—	—	—	—	—	—

※1: JDシリーズを給湯に使用する場合は、次の点に注意してください。
 ・金属製継手は、熱でカバーが変形するおそれがありますので、使用できません。
 ・樹脂管用の継手を使用する場合、継手のソケットの外径は、φ39以下のものを使用してください。
 ・管内温度80℃以下で使用してください。
 ・樹脂管が熱で伸縮することにより、カバーが外れるおそれがあります。
 直線配管距離は、当社耐熱給湯試験結果に基づいた目安です。
 使用環境によっては記載の直線距離を満たせない場合があります。
 ・樹脂管が熱で伸縮することにより、きしみが発生する場合があります。
 ・樹脂管が熱で伸縮することにより、カバーが落下するおそれがあるため、天井面には施工しないでください。
 ※2 ※3: TJCUM-20を使用時の直線配管距離は、2.5m以下(HTVP-16)、1.0m以下(HTVP-20)となります。

※4: TJCUM-20を使用時の直線配管距離は、2.0m以下となります。
 TJK-20を使用時の直線配管距離は、
 架橋ポリエチレン管を使用する場合、2.0m以下となります。
 ポリブテン管を使用する場合、2.5m以下となります。
 ※5: TJCUM-20を使用時の直線配管距離は、
 架橋ポリエチレン管を使用する場合、屋外1.5m以下/屋内2.0m以下となります。
 ポリブテン管を使用する場合、屋内のみ使用可能。2.0m以下となります。
 ※6: 屋内のみで使用できます。
 ※7: エスロベックスCVを使用する場合は、JH-13Jを使用してください。
 ※8: 保温材厚10mmの場合は、φ31以下。
 ※9: 保温材厚10mmの場合は、φ33以下。

以上